

2年 通年	国語総合	履修形態	全員履修（3・4修制）
		履修単位	2単位
	科目目標	教科書	国総361 高等学校 改訂版 標準国語総合（第一）
	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。	副教材等	なし
		履修条件	必履修科目 原則として未履修の場合、現代文Aの履修は不可

学習内容

古今東西の作品に触れ、身のまわりの事象を知り、考え、自らの思いを表現することを通して、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」などの総合的な言語能力を養う。

評価方法	定期考査、出席状況、提出物、授業態度等を総合的に判断し評価する。
学習上の留意点	忘れ物をせず、積極的に授業に参加すること。ノートをしっかりとること。

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
期前	6	【評論（一）】 ・日本語万華鏡	【評論】 ・筆者の主張を正確に読み取った上で、日本と外国の言葉の違いを考える。
	7 8 9	【小説（一）】 ・羅生門	【小説】 ・周囲の状況や主人公の言動から、その心情の変化を的確に読み取る。
後期	10	【説話と隨筆】 ・徒然草	【古文】 ・古代の人々の生活様式に关心を持つ。 ・古典文学に親しみ、作品の内容を正しく理解する。
	11	【漢詩の鑑賞】 ・唐詩の世界	【漢詩】 ・漢詩の基礎知識について学ぶ。 ・漢詩のリズムに注意して音読できるようにする。 ・作者の心情とうたわれている情景を把握する。 ・漢詩のリズムに注意して音読できるようにする。
	12	【表現の実践】 ・資料に基づいて説明する ・スピーチをする	【表現】 ・自己表現力を養う。 ・適切な資料・情報を収集する能力を身につける。 ・聞く者を意識したコミュニケーション能力を養う。
	1		
	2		
	3		

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
評価の内容	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字の読み書きや言葉の意味を習得し、活用することができている。	目的や場に応じて効果的な話し方や聞き取り方ができる、また文章を書く上で効果的な表現方法や文章構成を身につけ、目的や意図に応じて工夫しながら書いている。	文章を通じて筆者の主張や思いを的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
評価方法	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査	・感想文などの作成した文章 ・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント、ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査

学習サポート

全員必履修の科目で、1年次の「国語総合」とあわせて4単位を修得できます。国語をより深く学びます。国語を適切に表現して的確に理解する能力を育成し、社会に通じる言語能力を養います。定期考査のほか、出席状況や授業態度も評価に入れ、授業ノートやプリントは期限内の提出が必要です。

2年	通年	数学 I	履修形態	全員履修 (3・4修制)
			履修単位	2 単位
		科目目標	教科書	数 I 323 高校数学 I 新訂版 (実教)
		1 年次後期で因数分解・平方根・2 次方程式を学んだ。これらを利用して、2 次関数・三角比の問題が解けるようにする。	副教材等	ステップノート数学 I (実教)
			履修条件	特になし
学習内容				
<p>2 次関数</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 次関数のグラフをかき、2 次関数のグラフを利用して最大・最小の応用問題や2 次不等式を解く。 <p>三角比</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比において、三角比相互の基本的関係とその応用を学ぶ。 三角比を利用して図形の面積を求める。 <p>データの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計の基本的な考え方を理解し、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 				
評価方法		定期考查、出席状況、授業態度、提出物等を総合的に判断し評価する。		
学習上の留意点		授業を聞き、ノートをとる。必ず自分で問題を解いてみること。		

授業計画 (学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント)

期	月	学習内容 (単元名)	学習のねらい・目標
前 期	6	2 次関数	
	7	・1 次関数のそのグラフ	・放物線の性質 (軸と頂点、下に凸) を理解し、基本形 (平方完成した形の 2 次関数のグラフがかけるようにする。
	8	・2 次関数とそのグラフ	・平方完成が出来るようにして、2 次関数のグラフがかけるようにする。
	9	・2 次関数の最大値・最小値	・グラフを利用して最大・最小の応用問題や、2 次不等式が解けるようにする。
	10	・2 次関数のグラフと 2 次方程式	
後 期	11	・2 次関数のグラフと 2 次不等式	
	12	三角比	
	1	・三角形	・三角比の意味を理解し、直角三角形の辺と角の間の基本的な関係を使えるようにし、応用問題が解けるようにする。
	2	・三角比の利用	・一般的な三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積の公式を導き、利用できるようにする。
	3	・三角比の相互関係	
後 期	13	・三角比の拡張	
	14	・三角形の面積	
	15	・正弦定理・余弦定理	
	16	・正弦定理・余弦定理の応用	
	17	データの分析	・統計の基本的な考え方を理解し、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。
後 期	18	・統計とグラフ	
	19	・度数分布表とヒストグラム	
	20	・代表値	
	21	・データの散らばり	
	22	・相関関係	

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	三角比、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりできる。	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現したり、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察したり、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断できる。	数学のよさを認識し数学を活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようしたりできる。
評価方法	学習状況の観察 ノート・問題集の記述 定期考查の結果	学習状況の観察 ノート・問題集の記述 定期考查の結果	学習状況の観察 ノート・問題集の記述 定期考查の結果

学習サポート

1 年次後期で学んだ数学 I について引き続き学習します。2 年次では、1 年次に学んだ内容を利用して「2 次関数」「三角比」「データの分析」について学習します。

1 年次同様授業時間中に演習時間を作ります。また、その時間を利用して自分で問題を解いてもらいます。

2年	通年	生物基礎	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	生基319 高校学校 改訂 新生物基礎(第一)
生物や生命現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育むとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。			副教材等	特になし
			履修条件	必履修科目
学習内容				
生物の多様性と共通性、遺伝子やタンパク質の構造と働きなどを学び、体内の環境を維持するためのしくみや生体防御のしくみを理解する。また、環境による植生の違いや生態系についても学習する。				
評価方法		定期考査・出席状況・授業態度・提出物を総合的に判断して評価する。		
学習上の留意点		教科書、ノートとプリントを中心に進める。欠席しないように気をつけること。		

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前期	6	第1章 生物の特徴 第1節 生物にみられる多様性と共通性	・生物の特徴を知り、生物の体をつくる細胞の共通性と多様性について学ぶ。 ・生物体内で酵素がどのように関係しているかを学ぶ。
	7	第2節 細胞とエネルギー	・エネルギーの取り出しや利用などから、細胞のはたらきを探る。
	8	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝子とDNA	・遺伝子の本体であるDNAについて学ぶ。 ・体細胞分裂の過程において、遺伝子がどのように分配されるかを理解する。
	9	第2節 遺伝子の働き	・タンパク質は、DNAの遺伝情報に従って合成され、体内でさまざまな働きを担っていることを理解する。
後期	10	第3章 体内環境と恒常性 第1節 生物の内部環境	・さまざまな生活環境の中で生きる生物体内の環境が、ある程度一定に保たれるしくみを学ぶ。
	11	第2節 体内環境を維持するしくみ 第3節 生体防御	・体内環境の変動に応じて、脳から神経、血液を通して精巧に調節されるしくみを理解する。 ・免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。
	12		
	1	第4章 植生の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	・光環境の違いによって生育する植物に違いがあること、植生は不变ではなく、長期的には移り変わっていることを学習する。
	2	第2節 気候とバイオーム	・バイオームの概念を理解する。
	3	第3節 生態系と物質循環 第4節 生態系のバランスと保全	・生態系におけるエネルギーの流れや物質循環、自然界のバランスについて学習する。

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識および技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	生物や生命現象について、基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、調査・実験・観察の技能を習得し、それらを適切に利用することができる。	生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、それらを科学的に考察・分析し、導き出した考えを表現できる。	身近な生物や生命現象と、日常生活や社会を関連づけ、主体的に関わり、それらを探求しようとする科学的態度を身につけていく。
評価方法	学習状況の観察 授業ノート、プリント、レポートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 授業ノート、プリント、レポートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 授業ノート、プリント、レポートの記述

学習サポート

全員必履修2単位の科目です。細胞や代謝、臓器、免疫などについて学習します。自分自身の身体についての授業なので、自分自身の健康や成長を意識できると、授業を楽しめると思います。考査の成績だけでなく、普段の授業態度や提出物も成績に含めますので、日頃から積極的な姿勢で授業を受けてください。

2年	通年	体育	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	特になし
・運動の楽しさや喜びを深く感じるとともに、体力の向上を図り、 健康な学校生活を送る。 ・安全、公正、協力、責任、参画などの態度を育て、意欲を高める。			副教材等	特になし
			履修条件	特になし
学習内容				
・体つくり運動	・ソフトボール	・選択体育（バスケットボール、バドミントン）	・サッカー	
評価方法	出席状況、体操服の有無、授業態度等を勘案し、総合的に評価する。			
学習上の留意点	遅刻、欠席、見学をしないこと。体操服を忘れないこと。			

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前期	6	体つくり運動	
	7	ソフトボール ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
	8	選択（バスケットボール、バドミントン） ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	・体操服、体育館シーチを着用させ、安全に留意して行う。
	9		・準備運動、補強運動をしっかりと行う。
	10		・ルールを守り、クラスの仲間と連携して、楽しくゲームを行う。
後期	11	サッカー ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	・準備、片づけを協力して行う。
	12		・健康に留意し、授業後のうがい、手洗いを励行する。
	1	選択（バスケットボール、バドミントン） ・個人技能 ・集団技能 ・ゲーム、審判法	
	2		
	3		

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。
評価方法	・学習状況の監察 ・ゲームやテストの結果	・学習状況の観察 ・ゲームや審判法、各種目での段階的な練習方法の理解と実施	・学習状況の観察 ・出席状況

学習サポート

高校2年次の体育では、運動の楽しさや喜びを深く感じるとともに、体力の向上を図り、健康な学校生活を送ることを目標に、上記の4種目を行います。実技科目となりますので、出席状況（欠席・遅刻・見学）・忘れ物がないようにしてください。

2年	通年	保健	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	1単位
科目目標			教科書	保体304 現代高等保健体育改訂版（大修館）
・個人及び社会生活における健康、安全について理解を深める。 ・生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく。			副教材等	保体304 現代高等保健体育ノート（大修館）
			履修条件	特になし
学習内容				
第2単元 生涯を通じる健康（詳細は授業計画を参照） 第3単元 社会生活と健康（詳細は授業計画を参照）				
評価方法		出席状況、忘れ物の有無、授業態度、定期考査等を勘案し、総合的に評価する。		
学習上の留意点		遅刻、欠席をしないこと。教科書、ノートを忘れないこと。		

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）

期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前期	6	第2単元 生涯を通じる健康 ・生涯の各段階における健康	・生涯にわたって健康を保持増進するには各段階の健康課題に応じた自己の健康管理と環境づくりが関わっていることを理解する。
	7		
	8	・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	・生涯を通じて健康を保持増進するには保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを理解する。また、医薬品には有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること、疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解する。
	9	・様々な保健活動や対策	・わが国や世界では健康課題に対応して様々な保健活動や対策などが行われていることを理解する。
後期	10	第3単元 社会生活と健康 ・環境と健康	・人間の生活や産業活動は自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること、それらを防ぐには汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解する。
	11		
	12	・環境と食品の健康	・環境衛生活動は学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づき行われていること。また、食品衛生活動は食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解する。
	1		
後期	2	・労働と健康	・労働災害の防止には作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解する。
	3		

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	生涯を通じる健康・社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	生涯を通じる健康・社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。	生涯を通じる健康・社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。
評価方法	・学習状況の観察 ・ワークシートの記述 ・定期考査の実施	・学習状況の観察 ・ワークシートの記述 ・定期考査の実施	・学習状況の観察 ・ワークシートの記述 ・出席状況・忘れ物の有無

学習サポート

高校1年次の保健は、必履修科目となります。前期では「生涯の各段階における健康」「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」「様々な保健活動や対策」、後期では「環境と健康」「環境と食品の保健」「労働と健康」を学習します。考査前には、課題を提出してもらうので、しっかりと提出してください。

2年	通年	実習①	履修形態	選択 (3・4修制)		
			履修単位	4単位		
科目目標		教科書	特になし			
工業技術基礎①で修得した技術をもとに、より専門的で幅広い工業分野の実習を行い、技術や技能を習得とともにづくり精神の育成を目指す。		副教材等	なし (自作プリント)			
		履修条件	特になし			
学習内容						
全体を8班に分け、学習系列毎に8つに編成された実習をローテーションしていく。						
評価方法		態度、出席状況、取組み、課題、レポート等から総合的に判断し評価する。				
学習上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> 必ず実習服を着用すること。 危険な機械を取り扱うこともあるので、担当の先生の説明をよく聞いて取り組むこと。 				

授業計画 (学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント)

期	月	学習内容 (単元名)	学習のねらい・目標
前期	6	各系列の実習内容	<ul style="list-style-type: none"> NC旋盤によるプログラムと切削加工を行う。
	7	(1) NC旋盤・フライス盤 (機械工学系)	<ul style="list-style-type: none"> フライス盤による切削加工を行う。
	8	(2) 旋盤 (機械工学系)	<ul style="list-style-type: none"> テーパ、突切り加工などを行う。
	9	(3) アーク・ガス溶接 (健康科学工学系)	<ul style="list-style-type: none"> アーク・ガス溶接、ガス切断の特徴を理解し 基本的な技法を身に付ける。
後期	10	(4) 木工クラフト (健康科学工学系)	<ul style="list-style-type: none"> 糸鋸盤を使用した木工作品を製作する。
	11	(5) 中和滴定 (エレキ ⁺ -環境工学系)	<ul style="list-style-type: none"> 酸性やアルカリ性の濃度の測定方法を学ぶ。
	12	(6) 文章作成／表計算 (IT工学系)	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft社のWord及びExcelの基本的な操作を学ぶ。
	1	(7) 電子工作 (IT工学系)	<ul style="list-style-type: none"> はんだ付けおよび部品リサイクルの実習。
	2	(8) 電気工事 (電気工学系)	<ul style="list-style-type: none"> 電気工事の基本実習を行う。
	3		

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む
評価基準	各種実習の知識・技能的習得度、 作業の合理的な処理内容を総合評 価する。	各種実習についての基礎的・ 基本的な知識の習得度を総合評価する。	各種実習の関心度・意欲・態度を総合評価する。
評価方法	作品の内容。 発展学習への取組み。	レポート、プリントの内容 作品の創意工夫。	課題、作品の内容と提出状況発展学習への取組み。

学習サポート

実習服を着用していない場合、安全上の理由から作業は行えません。 評価については、各ショップの評価を総合して評価します。しかし、各ショップの評価は、実施時数の1/2以上の出席を必要とします。指導に従い、実習へ真面目に取り組む姿勢や態度が必要です。 作品や報告書等の課題提出が必要です。 作業上特別な配慮が必要となった場合は、課題作品以外の内容を持って行います。
--

2年 通年	電気実習①	履修形態	選択（3・4修制）
		履修単位	4単位
科目目標	教科書	特になし	
電気の基礎的な技術を身につけると同時に、使用機器や器具の原理、構造とその取扱いを体得する。	副教材等	なし（自作プリント）	
	履修条件	特になし	
学習内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・電気工事実習 ・電気計測実習 ・電子工作実習 ・PC実習 <p>・前期・後期共に上記4実習を行う。</p> <p>・さまざまな器具や機器の原理と、その使い方等基礎的な技術を身に付ける。</p>			
評価方法	授業に取組む姿勢・レポート等を総合的に判断する。		
学習上の留意点	実習服を着用し、安全を心掛けて取り組む。実習①と同じ時間に行われている。		

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）			
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前期	6	電気工事実習	<ul style="list-style-type: none"> ・電線の被覆、外装剥きができるようになる。 ・スイッチやコンセントなどの各機器への接続ができるようになる。 ・単線図を複線図に変換できるようになる。 ・複線図を見て、回路を完成できるようになる。
	7		
	8	電気計測実習	<ul style="list-style-type: none"> ・電流計、電圧計、オシロスコープ、テスターなど測定機器の使用方法を習得する。 ・オームの法則やキルヒホッフの法則などの電気基礎で学んだ理論を、実習を通じて習得する。
	9		
後期	10	電子工作実習	<ul style="list-style-type: none"> ・半田ごてを安全に使えるようになる。 ・各種半導体素子の基本的な性質を理解する。 ・ダイオード・トランジスタの静特性を理解する。
	11		
	12		
	1	PC実習	<ul style="list-style-type: none"> ・文字入力が正確にできるようになる。 ・文書の編集、表の作成、作図や画像の挿入ができるようになる。
2			
3			

学習評価の観点別規準と評価方法			
評価の観点	知識及び技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<p>①工業分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、工業の発展と環境との調和のとれたあり方や現代社会における工業の意義や役割を理解している。</p> <p>②工業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その技術を適切に活用している。</p>	工業実習に関する諸問題の解決を目指して、広い視野から自ら考え、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意的な能力を身につけている。	工業実習に関する諸問題について関心をもちその改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身につけている。
評価方法	レポートの提出や質疑応答 実習作品や測定の完成度 レポートの提出	実習態度の観察 レポートの提出	実習態度の観察 レポートの提出

学習サポート			
<p>実習服を着用していない場合、安全上の理由から作業は行えません。</p> <p>評価については、各ショップの評価を総合評価します。しかし、各ショップの評価は、実施時数の1/2以上の出席を必要とします。</p> <p>指導に従い、電気実習へ真面目に取り組む姿勢や態度が必要です。</p> <p>作品や報告書等の課題提出が求められます。</p> <p>作業上特別な配慮が必要となった場合は、課題作品以外の内容を持って行います。</p>			

2年 通年	基礎製図	履修形態	全員履修 (3・4修制)
		履修単位	2単位
	科目目標	教科書	工業307 製図 (実教)
	製図の基礎的な知識と技術を習得する。	副教材等	基礎製図検定問題集
		履修条件	(自作プリント)

学習内容		
教科書を中心に製図の基礎的な学習をするとともに、課題の作成を通して作図の技術を習得する。また、授業を通して課題の提出期限を厳守することや作図する態度も養う。		
評価方法		課題提出状況、考查、授業中の取組姿勢・態度をから総合的に判断します。
学習上の留意点		積み重ねが重要であり、遅刻・欠席をしないこと。製図用具は毎回持参すること。

授業計画 (学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント)

期	月	学習内容 (単元名)	学習のねらい・目標
前期	6	製図の基礎 製図用具とその使い方 図面に用いる文字と線 基礎的な図面のかき方 投影図のかき方 立体的な図示法 片側断面図 補助投影図 展開図 基礎製図検定練習問題	基礎製図検定問題集を中心に授業を進める。 用具の正しい使い方を身に付け、文字と線を正しく書けるようする。 基本的な図形の作図法を理解し、直線や曲線の正しいつなぎ方を習得する。 投影図や立体図の問題を多く取り入れ、理解を深める。 学習成果の確認として基礎製図検定を受験する。
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
後期	12	製作図 製作図のあらまし 基本的な図のかきかた ドラフターを使った作図 製図例の模写	理論と実技を並行で実施する。 簡単な図形の作図を通して、正投影法の基本的な図示形式を理解し表現する。 また、能率的な製図を心掛け、きれいに迅速な作図法を習得する。 寸法や補助記号及び公差・表面性状について理解し、表現方法を習得する。
	1		
	2		
	3		

学習評価の観点別規準と評価方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価基準	製図に関する事象に関心をもち、意欲的に探求する態度を身につけようとする。	製図に関する事象について、論理的に考えたり、分析したりして、総合的に判断できる。また、その過程や結果および考え方を的確に表現できる。	製図に関する事象について理解し、読図・作図の技能を身につけている。	製図に関する事象について、基本的な概念や基礎的な知識を理解し、身につけている。
評価方法	学習に必要なもの、検定問題集・製図用具などの準備状況の観察。学習状況の観察。	学習状況の観察。検定問題集、及び製作図の提出の有無、及び内容。課題作品の内容。定期考查の結果。	学習状況の観察。検定問題集、及び製作図の提出の有無、及び内容。課題作品の内容。定期考查の結果。	学習状況の観察。ワークブックの内容。課題作品の内容。定期考查の結果。

学習サポート

基礎製図検定問題集を中心に、投影図・等角図など基礎的な製図の知識と技術を学び、作図の技術・知識の技術の習得を目指します。実技を伴う科目です。 指導に従い、期限内に問題集・課題・ノートなどの提出が必要です。 欠席による遅れ、製図用具の紛失による遅れは評価を下げる原因となります。
--